

平成 17 年度環境科学センター研究推進委員会課題評価結果

2 重点経常研究

- (2) 「アスベスト含有建材の解体等に伴うアスベストの飛散並びにその防止技術の検証」(新規課題)

[総合評価とコメント]

- 建物等の解体時の適切なアスベスト対策は、作業員ならびに周辺住民の安全と安心を確保する上で基本です。また、社会的にも関心の高い問題にもなっています。散水という原始的な手法でありながら具体的な条件が不明確な対策方法に関する地道ながらも時宜を得た取組みとして高く評価できます。

ただ、無散水時に大気中に飛散するはずであったアスベストが、水量にもよりますが散水によって水と共に地上に落ちると考えられます。それらが排水となったり、しばらくして乾燥した後に大気中に飛散したりすることは考えられないでしょうか。欲を言えば、建材破砕時に直接大気中へ飛散するアスベストの量だけでなく、水と共に落下するアスベストも計測し、総量としてアスベスト繊維の発生量を抑えるという観点からも検討して頂ければありがたいと思います。

- 実験室で得られるデータを利用しつつ、現場における汚染のリスクを計測するように、研究手法のさらなる開発を期待します。

- 社会的な緊急性が高く、県民の関心も高い重要な課題である。周辺への環境汚染だけでなく、解体作業員の安全性確保の点からも重要である。

基礎実験のデータも重要であるが、現場データが、より重要である。現場データは建物のアスベスト含有建材使用状況だけでなく、立地条件、気象条件など多くの因子が絡むので、普遍的な判断がつきにくい。現場の数をどれだけ確保できるかが鍵となるので、計画的にデータを取れるスキームを考えて実施してほしい。他の自治体に同様の動きがあれば、データを共有するなど一案と思われる。

- アスベスト破砕時の飛散防止対策についての研究は、現在、アスベストによる健康被害が日本中で問題になっているだけに、時機を得ており、成果が大いに期待されます。表題のような実験例は少ないと思われるので、最適な実験方法の予測が難しいと思います。容器を小型にすることで、拡散の影響が不明になりますが、発生するアスベスト小片をできるだけ多く採取する目的からは、小型の方が望ましいという理由は理解できます。

また、曲げ試験装置による1回の破断だけだと、微細なアスベストが発生しにくいようにも思われます。この点は、衝撃試験装置によるテストで、ある程度カバーされそうですが、拡散の影響の評価も含めて、「研究計画書」にあるように、実際の解体現場での実測調査の実施による結果の解析が期待されます。すでに経験豊富な方々が担当されているので、問題ないと思いますが、実験にあたっては、くれぐれもアスベストを吸引しないよう注意して、研究を進められることを望みます。

○ 緊要な課題であり、なおかつ、国の規制が十分でない恐れのある対象であり、地域住民の健康に関わる良好な環境保全に責務を有する県の研究機関が実施する意義は大きい。迅速な研究成果の達成と共に公表が期待される。

実践的な課題であることは十分理解をするが、一方では、研究機関の実験実施であるからには、実験に関わる特性の明確化は不可欠と言えよう。広義の粒子状物質として粒径特性の把握、エミッションファクターとして数量的把握などは高い精度ではなくとも押さえる必要がある。

○ 重要な課題です。種々の条件におけるアスベストの飛散防止基準が出来れば有用と思います。

(数値的評価)

★評価者 6 名

<評価の内容>	<評価項目>	<ランク>				
課題設定の妥当性	○背景の必要性	5 (6人)	4 (0人)	3(0人)	2(0人)	1 (0人)
	○優先性	5 (6人)	4 (0人)	3(0人)	2(0人)	1 (0人)
計画の立案と実施法	○研究内容	5 (3人)	4 (3人)	3(0人)	2(0人)	1 (0人)
	○計画の妥当性	5 (1人)	4 (5人)	3(0人)	2(0人)	1 (0人)

※ランクは、5点満点の評価で5(優)～1(劣)